

欧州マーケットビュー



■ ECBはラガルド新総裁の下、12月12日の理事会で政策金利を据え置くことを決定しました。また、長期にわたり低金利を維持し、月額200億ユーロのペースでの資産買入れを継続する方針を示しました。

■ ユーロ圏の財政政策は足元でやや拡張的（景気刺激的）なスタンスとなっています。2020年は安定成長協定の基準見直し等を通じて景気を下支えする可能性が高いものの、財政政策スタンスが一段と刺激的な方向に進む可能性は小さいと見込んでいます。

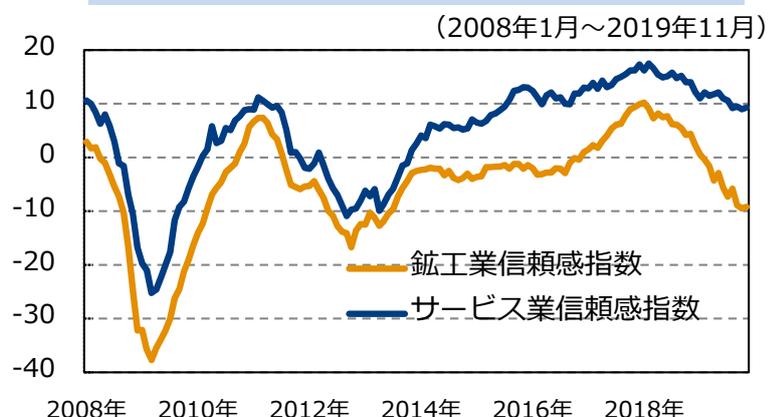
金利とインフレ率

2019年11月のユーロ圏の消費者物価指数（前年比）は+1.0%となりました。長期金利はマイナス圏での推移が続いています。



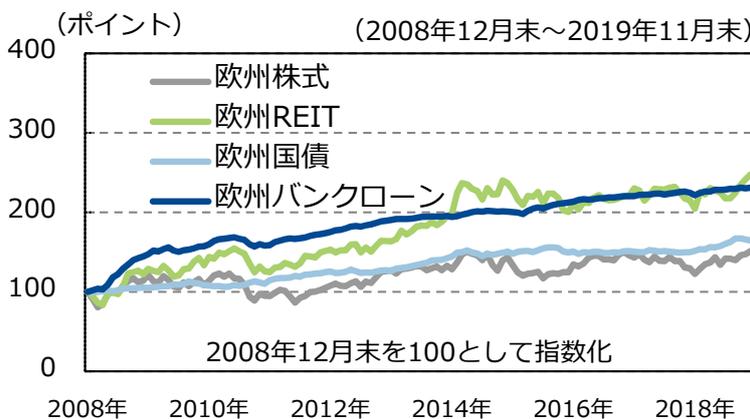
企業景況感

鉱工業信頼感指数（11月）は10カ月連続のマイナスとなりました。サービス業信頼感指数はプラス圏を維持しています。



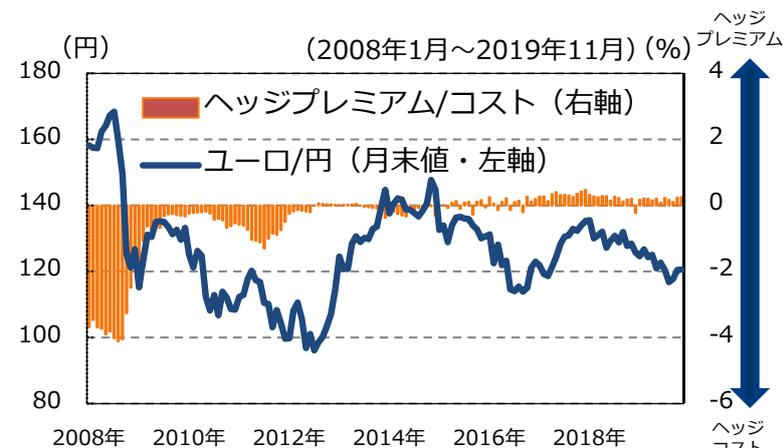
欧州各資産の推移

2008年12月末からの欧州各資産の推移をみると、欧州バンクローンの安定した推移が確認できます。



ユーロ/円およびヘッジプレミアム/コスト

ユーロより日本円の金利が高い状況により、ユーロ/円はヘッジプレミアムが生じています。（2019年11月：0.25%）



(注) 為替ヘッジプレミアム/コストは直物為替レートと期日1カ月後の為替予約レートとの価格差（月間平均値）から簡便法により算出。

(出所) 各種データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※使用したインデックス（いずれもユーロベース）
 欧州株式：ユーロストック50指数、欧州REIT：FTSE EPRA/NAREIT Developed Europe Index、欧州国債：FTSE欧州国債インデックス、欧州バンクローン：クレディ・スイス・ウェスタン・ヨーロッパ・レパレジッド・ローン・インデックス

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。